

「創造授業」～デザインを手に入れた子どもたち～を紹介します

本校では4年前から6年生を対象にした「創造授業」を行っています。この学習は、子どもたちが「デザインの視点」を学ぶことで、新たな物の見方・考え方・感じ方で、身の回りの物や地域の課題について考えていくことを目的にしています。



生き方について

「デザインの視点とは…?」

デザインといっても色や形の造形だけではありません。これからの地域社会では、様々な問題に対して新たな解決策を見つけたり、埋もれていた既存にある価値に光をあてたりする、新しいモノの見方が必要です。この新しい物の見方を可能にするのが「デザインの視点」です。

この学習は、近隣のデザイナーの方々から「三重県の『創造力』たちを育

てるデザイン教育プロジェクト」のお誘いをいただいたのがきっかけで、本校では、SOCS（勢和リジナルコミュニティスクール）の高学年の学習の一環として取り組んできました。

この取り組みには「もしも子どもたちが、デザインの視点を手に入れることができれば『何もない場所』と思い込んでいた町の風景が、これまでとはとがったように見えるのではないか。そしてたってもっと自分が生まれた町を大好きになれるんじゃないだろうか」というデザイナーの方々や教員の思いがあります。今年度10時間の主なカリキュラムは次の3つです

- 解剖：見えている物事だけで判断するのではなく、見えない部分を見ようとしたり創造しようとしたりすることの大切さに気付く。
- 反転：固定観念を取り払うことを学ぶ。
- 合体：一見何の関係もないもの同士を結びつけて新たなモノやアイデアを生み出す。



物を違った角度から観よう



問題解決の手順を学ぶ

これらの学びは、小中連携、キャリア教育の一部として勢和中学校にも引き継がれ、地域との連携を深める取り組みとして進めてもらっています。

新たな授業の試みとして始めた「創造授業」は、「AI技術が発達し、私たちの生活や社会システムが大きく変化するといわれているこれからの社会を、自分らしく、よりよく生きていくために必要な学びの一つであると考えています。勢和で学んだ子どもたちが、将来、この地をそして日本や世界をどう担っていくてくれるのかを想像するとワクワクします。

11月の予定

2日(金)～3日(土) 6年生修学旅行	12日(月) クラブ活動
2日(金) 4年生社会見学	19日(月) 5年生社会見学
3日(土) 文化の日	20日(火) 2年生校外学習(ささゆり苑)
4日(日) 町PTA親睦球技大会・みなび祭り	22日(木) スクールカウンセラー(高先生)来校
5日(月) 6年生代休	23日(金) 勤労感謝の日
8日(木) スクールカウンセラー(高先生)来校	29日(木) ノーメディアデー
9日(金) 4限短縮授業(相可小研究発表会参加のため)	スクールカウンセラー(高先生)来校



平成 30 年度全国学力・学習状況調査について

～基本的な考え方～

「全国学力・学習状況調査」の結果については、全国と各県の平均正答率が公表されていますが、数十名の1つの学年では、その平均点だけで分析を試みても、必ずしもその集団全体の状況を的確に表すわけではありません。また、「全国学力・学習状況調査」は、あくまでも「調査」です。4月の段階での固定的な、いわば「学んだ事柄」の定着の程度をみるもので、6ヶ月たった現時点において子どもたち一人ひとりが有意義な学習ができていくかについて正確に評価するものでもありません。

しかしながら、この調査の趣旨にもある、子どもたちの学習の長所・短所・傾向を明らかにして、指導内容・方法の検討を行って授業を改善していくことは重要なことであると考えています。

この調査では「児童質問紙」による意識調査も行っています。「児童質問紙」では、児童の普段の生活の様子や学校生活・授業に対する意識の傾向を知ることができます。

本校では6年生4月期の「全国学力・学習状況調査」他に、県が行うスタディーチェック（4・5年生）、町が行う標準学力調査や学級集団の満足度調査 QU 調査（年2回）を利用して、子どもたちの生活・学習の両面から現状を分析し、授業や学級運営の改善を継続的に行っています。

～本校の国語 A・B 及び算数 A・B、児童質問紙の結果について～

国語 A・B：国語 A の「主として知識」は、県平均とほぼ同じで、全国平均をわずかに下回りました。

国語 B の「主として活用」については、県・全国の平均に数ポイント届きませんでした。内容においては、特に「登場人物の心情を読み取る」「文の構成を考えて正しく書く」については課題があることがわかりました。一方で「筋道を立てて話す」「場面に応じて敬語を使う」が県・国を上回る良い結果になりました。

算数 A・B：算数 A 「主として知識」・算数 B 「主として活用」とともに、県・全国の平均を若干下回りました。内容においては特に「単位量の意味や使い方」「数量や図形についての技能」と「グラフの読み取り」について課題があります。一方で、「単位量を求める立式」「図形についての基本的な知識・理解」の分野では、県・国を上回る良い結果でした。

理科：全体の正答率は、県を上回り、全国とほぼ同じ結果になりました。内容においては、「科学的な言葉や概念の基本的な理解」「実験器具の操作」の分野でよい結果となり、「実験を構想したり、実験結果を分析したりする」ことが課題になりました。

児童質問紙：全62問の中で「当てはまる」と答えた主な質問について

全国平均を大きく（10ポイント近く）上回った項目 33 項目の内の主なもの	今後の課題となる項目
地域のことを調べたり、人とかかわったりした。	毎日、同じくらいの時間に起きている。
地域社会等でボランティア活動をした。	新聞を読んでいる。
地域の人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある。	算数で新しい問題に出会ったとき解いてみたいと思う。
先生は自分のことを認めてくれている。	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う。
算数の学習は将来役に立つ。	自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てを工夫して発表した。
算数の公式や決まりを理解するようにしている。	
理科の勉強は好き。	
理科の勉強は大切だと思う。	
自然の中で遊んだり自然観察をしたことがある。	<分析と今後の取り組み> ほとんどの質問で「している」「当てはまる」と答える子どもの割合が県・全国の割合より高く、学校生活を楽しくしている様子が伺えます。 特に、地域のことを調べたり、地域の方々とかかわったりすることが多く、自然に興味をもって学習している様子が伺えます。これは本校の子どもたちの強みで、SOCS の活動等で日常的に地域の方々とかかわる機会をもってきているからだと思われます。
理科で学習したことを生活で活用しようとする。	
理科の学習で週 1 回以上観察や実験をした。	
観察や実験を行うことが好き。	
社会の事柄や自然の事柄に「不思議だな」「おもしろいな」等と思うことがある。	

もたちの強みで、SOCS の活動等で日常的に地域の方々とかかわる機会をもってきているからだと思われます。学習面では、文を読んで自分の感じたことや考えを書くこと（国語）や、図形を書くこと・グラフの読み取り・単位量当たりの数で比べること（算数）等について、適切な復習教材を選定して学習する機会をもっていきます。